

お役立ち医療情報

第4話 水虫とは

水虫とは、皮膚糸状菌(多くは白癬菌)という一種のカビによって生じる感染症です。

生じる場所によりそれぞれ呼び名があります。

足は水虫（足白癬）、爪は爪水虫（爪白癬）、股はいんきんたむし（股部白癬）、体はたむし（体部白癬）、頭はしらくも（頭部白癬）などと呼ばれるのが一般的です。



白癬菌はカビですので高温多湿を好み、ケラチンという皮膚の蛋白を栄養源とするため、足の裏、足指の間などが白癬菌にとって最も住みやすい場所になります。

通常は、皮膚の表面に感染しますが、時に頭の毛から皮膚の中に入りこみ、広範囲に膿んで脱毛をきたすケルズス禿瘡という深在性の白癬が生じることもあります。

■症状は？

部位により特徴があります。

足の水虫（足白癬）では、足裏、足指の間などですが、足指の間が、ジュクジュクして白くふやける（浸軟）湿ったタイプ、足裏に小さな水ぶくれができたあとカサカサと薄皮がむけるタイプ、足裏がガサガサ厚くなる（角質増殖）タイプなどがあります。水虫はかゆいというイメージがありますが、実はかゆみがない場合もしばしばあります。



爪の水虫（爪白癬）では、爪が白色から黄色に濁り、厚くなります。股のいんきんたむし（股部白癬）や体のたむし（体部白癬）では、赤みがだんだん輪になってまわりに広がるのが特徴です。普通はかゆみがあります。

頭のしらくも（頭部白癬）では、頭皮がカサカサして毛が抜けてきます。頭の毛の中に深く菌が入るとケルズス禿瘡になり、膿、しこりを伴うようになり、放置すると癬痕、永久脱毛を残します。ケルズス禿瘡は、子どもが犬や猫と遊んでうつった菌により生じることがしばしばあります。



■治療方法はどのようなものがあるのでしょうか？

抗真菌薬の外用剤を塗ることが白癬治療の基本です。

以前は水虫に効く薬を開発したらノーベル賞ものだといわれましたが、今はよく効く薬がたくさんあります。大事なことは、毎日塗ることと、症状が落ち着いたようにみえてもそれからさらに1カ月程度は外用することです。ただし、かぶれや化膿が加わっている場合や、ジュクジュク白くふやけている水虫の場合は、最初から抗真菌薬を塗っても効果があがらず、かえって刺激になってしまうことがあります。これらの場合には、最初、かぶれや化膿の合併症を治療した後、また、ふやけているところは亜鉛華軟膏などで乾燥化させた後、抗真菌薬の外用を開始します。



抗真菌薬の内服が必要なのは、爪の水虫とケルズス禿瘡です。爪の水虫の場合は、半年間ほど連日飲みます。肝臓に負担がかかることもあるため、肝臓の弱い方は飲めません。肝機能は内服中1カ月に1回検査を行います。ケルズス禿瘡は、頭のしらくもをかぶれと間違って副腎皮質ステロイド薬を塗っているうちに、症状が進展して生じる場合が最も多いといえます。ステロイド薬を早急に中止することが必要です。

足の水虫では命はとられないと軽く考えがちですが、糖尿病などの疾患がもともとある方は要注意です。足の水虫から化膿菌が入りやすいため、脚が赤く腫れ上がる蜂窩織炎、さらにはより重症になると筋膜のレベルで広範囲に化膿が波及する壊死性筋膜炎が生じます。蜂窩織炎であれば抗生物質の点滴で治療できますが、壊死性筋膜炎になると、早期に発見して早急に外科的な壊死組織除去の手術をあわせて施行しなくてはなりません。壊死性筋膜炎は死亡する率が高い病気です。



■治ったと思っても少し外用は続けて下さい。

カビは高温多湿を好むので、その反対の状態にすることが必要なのです。むらさない、良く乾かす、良く洗うと言った行為を普段から心がける必要があります。家庭内で複数の水虫の方がいる場合には、一緒に治療する事が必要となってきます。共用のタオルや足拭きなどから感染する事が多いのです。そのような物は個人、個人で別々にして下さい。それから水虫の場合、一旦治ったと思っても完治していない場合が多いので、治ったように見えた後でも外用を暫くは続けて下さい。菌が完全に根絶するまでに時間がかかりますので辞めてしまって再発したと言うケースがかなり多くあります。そして一番は、普段から清潔を心がける事が大切な予防となります。

